

環境問題から見た東日本大震災の意味とキリスト教の役割 —環境神学の構築をめざして—

2012年3月17日(土)午後2時～5時
関東学院大学金沢八景キャンパス
フォアサイト21棟3階F301教室

2011年(平成23年)3月11日(金)に発生した東日本大震災によって日本の社会、ことに東日本の地域社会は壊滅的な打撃を受けた。福島原子力発電所の大事故(メルトダウン)は、日本のみならず世界に大きな衝撃を与えた。この未曾有の大災害からどのように回復すべきか、また、エネルギー政策を含めて今後どのような社会システムを構築したらよいのかを抜本的に考え直す必要がある。宗教界、特にキリスト教はどのような役割を果たすべきかが問われている。そこで、環境問題から見た東日本大震災の意味とキリスト教の役割を考える。ことに、新しい環境神学をどのように構築し実践すべきかを検討する。

パネラー

安田治夫 日本基督教団大和教会牧師

ヒロシマ、チェルノブイリ、フクシマを経てのエネルギー問題再考
—崖淵に立つ危機から新たな神学ビジョン構築へ向けて—

木村護郎 クリストフ 上智大学外国語学部准教授

なぜエネルギー問題が信仰(者)の課題となるのか
—チェルノブイリ後のドイツとフクシマ後の日本—

安田八十五 関東学院大学経済学部教授

第三次関東大震災のリスク分析と政策シミュレーション
—大地震で米空母の原子炉が事故を起こした場合の被害に関する社会システム分析と政策提言—

参加希望者は、氏名(ふりがな)・所属・連絡先等を書き、電子メール・ファックス等でお申し込みをお願いします。
参加費は無料。交通(京急電鉄金沢八景駅から徒歩約15分・関東学院循環バスで約5分)
交通アクセスは、下記ホームページを参照されたい。

関東学院大学キリスト教と文化研究所

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL:045-786-7873 FAX:045-786-7806
<http://univ.kanto-gakuin.ac.jp>
Email: kgujesus@kanto-gakuin.ac.jp